

令和6年度 学力向上指導改善プラン

けやき台小学校長 清山 孝利

| 学校教育目標 | | 夢に向かって 堂々と歩む子の育成 ～あきらめず挑戦し 自尊心を高めるけやきっ子～ | | 4月 | | 2～3月 | |
|---------------------|--|---|---|--|--|--|---|
| 推進主体 | | 管理職と主幹教諭、学年・教務主任による学校教育改革推進委員会を設置し、以下の改善プランを策定 | | 学力向上に向けての重点的な目標 | | 年度末評価 | |
| 学力に関する前年度の状況・経年の課題等 | | | | (指標となる数値等) | | (成果目標達成のための具体的な手立て等) | |
| | | | | | | (今年度の成果と来年度に向けた課題等) | |
| | | | | | | 評価 | |
| 学力の状況 | 全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に関する質問調査の結果も含む) | 国語 | <ul style="list-style-type: none"> ◆「書くこと」領域の「資料をもとに、与えられた条件を満たしながら書き表し方を工夫して記述する」という設問に、課題が見られた。本校の平均正答率は24.8%で、全国平均と県平均を下回る結果であった。情報と情報の関係を探えたり、グラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書く力が必要である。 ◆国語教材の比較する内容の教材を重点教材ととらえ、文中のキーワードを使って、要約させる練習を積み重ねる。 ◆質問紙「国語の問題では、回答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように回答しましたか」では、最後まで回答を書こうと努力した84.7%と高いが、一方、書く問題は全く回答しなかった3.6%であり、この値は全国・兵庫県より高い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート(職員・保護者)の「児童の実態」の項目や子どもアンケートの「自分から進んで明るくあいさつをしている」「言葉づかいに気をつけて、友だちと仲良くしている」の項目で9割以上の肯定評価をめざす | <ul style="list-style-type: none"> ・学校いじめ防止基本方針」にもつき、いじめ・不登校の未然防止、早期発見・解決のための取り組みを行う。 ・けやき台中生徒会作成いじめ防止啓発カレンダーを校内に掲示する。 ・情報モラル教育講演会を実施し、人権に配慮した正しいコミュニケーション方法を学ぶ機会を設定する。 ・児童会主催で「あいさつ運動」(児童会)を実施し、めざす児童像の「人とつながる子」をめざす。 ・学校外の教育力(ゲストティーチャー)を活用し、多様な考え方や生き方・表現等にふれさせる場を設定する。 ・道徳教科書「あかつき」の他「こころはばたく」「心きらめく」「心ときめく」等を活用して、道徳教育・人権教育の充実を図る。 ・人権参観(ハートフル参観)を実施する。 ・人権標語(ハートフル標語)を考える機会を設定する。 ・特別活動委員会を中心に、学級会・児童会を充実させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題行動等に関する学校評価アンケート結果では、児童・保護者・職員評価とも昨年度と同程度、肯定的評価90%以上で高評価である。 ・いじめ等の指導事案、不登校児童、児童の抱える問題等について、生活指導委員会、不登校対策委員会を中心に、組織的に取り組んでいる。 ・「あいさつ」に関する学校評価アンケートの肯定的評価は、職員52%(昨年度54%)、保護者84%(昨年度85%)、児童92%(昨年度89%)となり、三者に意識の向上がある。 ・全職員が参観して、クラス学年に関わらずどの児童に対しても声をかけることであいさつへの意識を高められるように積極的に取り組む。 ・ハートフル参観、学級集會を持つ事ができたが、学級集會の参加者が少ないことは、課題である。 ・小学校における人権学習についての系統性を知らせるため、学校よりとして、授業内容と合わせ、学級集會の内容やねらいを配布している。 ・職員が意識して、児童をほめたり、がんばりを認めたりする等、自尊心を高める声掛けを続け、児童に「自己有用感」を感じさせることに努めていきたい。 ・けやき台小学校、より良い学校にするために、児童が自ら新しいアイデアを出し合いながら主体的に進められるよう、児童会活動、委員会活動、学級会等支援していきたい。 | A |
| | | 算数・数学 | <ul style="list-style-type: none"> ◆「図形・データの活用」に必要な条件を見つけて出して、筋道をたてて解答する力に課題がみられる。高さが具体的に示されていない複数の三角形について、それらの面積の大小を判断するのに必要な情報を見だし、その理由を記述することに課題がみられた。 ○問題形式においては、選択式・短答式・記述式の中で、記述式に強く(61.7% 全国平均より13%)正答率が大きく上回っていた。また無解答率が低く前向きに取り組む姿が見られた。 ○朝の学習タイムでの継続した算数プリントの取り組みも児童の基礎学力の定着につながっている。 ◆四則計算だけでなく、割合の意味や図形の意味や性質など、算数用語を理解する基礎力をつけていきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートの「読書」についての項目で9割以上の肯定評価をめざす | <ul style="list-style-type: none"> ・毎月23日を「家族読書の日」とし、学校だよりや図書館だよりで家族読書の啓発を行う。 ・学校司書と連携し、学校図書館と学年文庫の運営を工夫する。 ・学校司書と図書ボランティア(かたつむり)による読み聞かせを継続する。 ・各学期に一度、読書週間を設定し、朝読書を行う。 ・ブックフレンド(図書)委員会の活動を支援する。 ・国語科の中で、多読、おすすめの本紹介、ビブリオバトルなど、学年に応じて取り組み、本に触れ合う機会を持てるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートより経年3年間を比較すると、児童アンケート「本を読むことが好き」肯定的評価は、87%→84%→85%となった。保護者アンケート「子どもはよく読書をしている」肯定的評価は、63%→62%→61%となった。一方「あてはまらない」と答えた児童の割合は、7%から3%と4ポイント減少した点は評価できる。 ・図書ボランティアの協力のもと、学校司書がいなくても毎日貸し出しが行えるようになった。図書室前の掲示の工夫や読み聞かせも行った。昨年度と比べると、貸出冊数は約3300冊増え、貸出者数は約1200人増えている。 ・今年度も継続して、毎学期、読書ウィークを設定し、全校朝読書を行った。来年度は、2学期に2週間朝読書を拡大し取り組んでいく。 ・今後職員が意識して、児童の読書時間の確保や読書好きの児童の育成に取り組んでいく。 ・どの学年も、週に一度は図書室に来室するように声かけをする。(本に出会う機会づくり) ・国語科の中で、多読、おすすめの本紹介、ビブリオバトルなど、学年に応じて取り組み、本に触れ合う機会を持てるようにする。 ・学校司書、図書ボランティア、図書委員会と協力して、読書環境を発展させていく。 | B |
| | 定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科) | <ul style="list-style-type: none"> ◆算数科においては、基本の計算力が身につけている児童が多いが、文章題での活用や記述に課題のある児童もみられる。 ◆文章題から読み取ったことを適切な言葉で表現することが難しい児童がいる。 ◆国語のテスト以外では、漢字を活用できていない児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着を図り、学習意欲を高める | <ul style="list-style-type: none"> ・朝の学習タイムを継続する(算数)。 ・各学年児童の実態を考慮した、学力向上に向けての取り組みを工夫する。 ・放課後学習日や夏期休業期間等に学力保障(個別指導)を行う。 ・「がんばりタイム」を継続して実施する。 ・新学で行う算数プリントで計算の基礎的な技能を身に付けることができるようにしている。 ・学年で、授業研究と共に評価ポイント、評価方法などを話し合い、共通理解のもと、計画的に指導を進め評価できた。 ・全国学力・学習状況調査結果を踏まえて、授業改善を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価児童アンケートの「学校の勉強はわかる」の肯定的評価は95%でたいへん高評価である。また、「あてはまらない」と答えた児童は、0%である。 ・職員アンケートにおいても、この項目における肯定的評価が100%である。計画的で目標を明らかにした授業、指導と評価を一体化した授業が行えている。 ・新学で行う算数プリントで計算の基礎的な技能を身に付けることができるようにしている。 ・学年で、授業研究と共に評価ポイント、評価方法などを話し合い、共通理解のもと、計画的に指導を進め評価できた。 ・読む・書く・話す等、国語科で培った言語力を他教科でも生かせるような教科横断的な取り組みの推進をしていく。 | A | |
| | 授業等からうかがえる状況(各教科) | <ul style="list-style-type: none"> ◆文章を書く(ふりかえりの記述を含む)ことに時間のかかる児童がいる。 ◆線分図や関係図等がかけるが答えと図が一致しない児童がいる。 ◆家庭学習の定着が難しい児童がいる。 ◆学習に必要な持ち物が揃わない児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもアンケートの「休み時間や体育の時間に進んで運動したり、体を動かそう」とし「あてはまらない」と答えた児童の割合が全国・兵庫県平均を上回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな運動遊びができるよう環境整備を行う。 ・スポーツ(体育)委員会の活動を支援する。 ・栄養教諭と連携し、食育を計画的に行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート「体育の時間や休み時間に進んで運動したり、体を動かしたりしている」の肯定的評価は、94%であり、大変良好であった。 ・体育委員会で、大縄大会や、なわとびチャレンジを企画し、休み時間には、多くの児童が大縄やなわとびの練習に目標を持ち取り組むことができた。 ・体育科の授業では、課題に向かうために作戦カードやワークシートを活用し、タブレットを効果的に用いて授業を行うことができた。 ・学年に応じたなわとびや鉄棒カードを作成し、授業中だけでなく、休み時間や放課後にも目標を持って運動に取り組めるようにする。 | A | |
| 慣学・力生向上に慣れる学習状況 | 全国学力・学習状況調査の質問の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ◆質問紙「読書が好きですか」に関する結果は、肯定的評価が68.6%で全国・兵庫県の結果(約71%)を下回っている。 ○「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」の質問に対しては、「当てはまらない」「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した児童の割合が全国・兵庫県平均を上回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣の確立をめざす | <ul style="list-style-type: none"> ・「めざす児童像」を学校だよりや学級集會などで提示し、家庭での協力を求める。 ・校内や教室に「学校教育目標」(けやきの子(A・エース)をめざせ！)や「めざす児童像」(人とつながり笑顔あふれる心ほかほかなけやきっ子)の合い言葉を表示し、日々の指導に生かすと共に、全児童が意識できるようにする。 ・掃除が積極的にできるように、掃除用具の点検や指導の工夫をする。 ・学校ビカビカ(美化)委員会の活動を支援する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「そうじに関する学校評価アンケート結果は、職員77%、児童98%の肯定的評価と、教師と児童との意識の差が見られた。掃除の仕方「けやきモデル」を共通理解し、どの学年でも統一した掃除の仕方を継続したい。 ・掃除の方法の指導だけでなく、その意味を児童と考えることもし、掃除や整理整頓については、家族の一員としての役割を保護者とも考えていきたい。 ・美化委員会が主体となって、就緒の使い方や掃除を積極的に進めるような取り組みを行った。 ・あったか言葉、場に応じた言葉遣いや、相手のことを考えて話すことなど、特別の教科道徳での指導も含め、今後も継続して指導していく。 | A | |
| | 学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ◆「あいさつ」「そうじ」「言葉づかい」「廊下の右側を静かに歩く」を重点的に継続指導する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を効果的に活用した主体的・対話的に深い学びにつながる授業の工夫改善を行う | <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを効果的に用い、児童一人ひとりに有効な指導を続けられるよう学年で取り組む。 ・ふりかえりを、自己調整力に結びつけて、粘り強く学習に取り組む力の育成を目指す。 ・本校の算数科の研究とつなげ、対話的な授業創造を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「そうじに関する学校評価アンケート結果は、職員77%、児童98%の肯定的評価と、教師と児童との意識の差が見られた。掃除の仕方「けやきモデル」を共通理解し、どの学年でも統一した掃除の仕方を継続したい。 ・掃除の方法の指導だけでなく、その意味を児童と考えることもし、掃除や整理整頓については、家族の一員としての役割を保護者とも考えていきたい。 ・美化委員会が主体となって、就緒の使い方や掃除を積極的に進めるような取り組みを行った。 ・あったか言葉、場に応じた言葉遣いや、相手のことを考えて話すことなど、特別の教科道徳での指導も含め、今後も継続して指導していく。 | A | |
| 授業改善 | 主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善 | <ul style="list-style-type: none"> ○児童アンケートの「学校の勉強は楽しい」は、肯定的評価が88%。職員アンケートの「工夫ある授業づくり」について肯定的評価は92%へと高評価である。 ◆児童が思わず引き込まれる、考えたい、熱中できるような授業を展開できるよう、校内や学年でさらに授業研究に取り組む。 ◆ICTを活用した学習状況の改善が必要である。 5年までに受けた授業で、ICT機器を週1回以上使用していると回答している児童の割合は、72.9%である。これは、全国平均より10.3%、兵庫県平均より7%下回っている。 ○ICTを活用した学習状況を改善するために、各教科でのICT活用場面や方法を各学年の情報教育担当者を中心に検討する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「学びに向かう力を育てる～子どもたちが主体的に考え、つなげ、高め合う授業をめざして～」をテーマに算数科の研究に取り組んでいる。 ◆よりよい授業づくりのための事前・事後研修を工夫する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「めざす児童像」を学校だよりや学級集會などで提示し、家庭での協力を求める。 ・校内や教室に「学校教育目標」(けやきの子(A・エース)をめざせ！)や「めざす児童像」(人とつながり笑顔あふれる心ほかほかなけやきっ子)の合い言葉を表示し、日々の指導に生かすと共に、全児童が意識できるようにする。 ・掃除が積極的にできるように、掃除用具の点検や指導の工夫をする。 ・学校ビカビカ(美化)委員会の活動を支援する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「そうじに関する学校評価アンケート結果は、職員77%、児童98%の肯定的評価と、教師と児童との意識の差が見られた。掃除の仕方「けやきモデル」を共通理解し、どの学年でも統一した掃除の仕方を継続したい。 ・掃除の方法の指導だけでなく、その意味を児童と考えることもし、掃除や整理整頓については、家族の一員としての役割を保護者とも考えていきたい。 ・美化委員会が主体となって、就緒の使い方や掃除を積極的に進めるような取り組みを行った。 ・あったか言葉、場に応じた言葉遣いや、相手のことを考えて話すことなど、特別の教科道徳での指導も含め、今後も継続して指導していく。 | A | |
| | ICT機器を効果的に活用(クラウド環境を活かした授業実施等) | <ul style="list-style-type: none"> ○年間を通して、算数科授業研究・人権教育・特別支援教育・生徒指導・外国語教育・食物アレルギー対応などの研修を計画的に実施している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「学びに向かう力を育てる～子どもたちが主体的に考え、つなげ、高め合う授業をめざして～」のテーマに沿った研究の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・「めざす児童像」を学校だよりや学級集會などで提示し、家庭での協力を求める。 ・校内や教室に「学校教育目標」(けやきの子(A・エース)をめざせ！)や「めざす児童像」(人とつながり笑顔あふれる心ほかほかなけやきっ子)の合い言葉を表示し、日々の指導に生かすと共に、全児童が意識できるようにする。 ・掃除が積極的にできるように、掃除用具の点検や指導の工夫をする。 ・学校ビカビカ(美化)委員会の活動を支援する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価の児童アンケート「タブレットを用いて学習することが楽しい」に関する肯定的評価は97%であった。職員アンケート「学習指導において、ICT機器を効果的に活用する実践を行っている」では、肯定的評価が98%であった。 ・授業において、大型モニターに映して自分の考えを説明したり、プレゼンテーションソフトやマイクボードを用い、調べたことをまとめて発表したり、児童同士で考えを交流するなど、iPadを効果的に活用できた。 ・学習指導における「問い」の効果を効果的に活用方法を、今後も学年で話し合い共有していくこと、また、活用のアイデアを学校で共有していくことしていく。 ・iPadを効果的に用い、個別最適な学びの場を設定していく。 ・今後も、iPadの使い方や、情報モラルについて、学年の発達段階に応じて指導していく。 | A | |
| 研修内・校内外の状況 | 校内研究の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ○「学びに向かう力を育てる～子どもたちが主体的に考え、つなげ、高め合う授業をめざして～」をテーマに算数科の研究に取り組んでいる。 ◆よりよい授業づくりのための事前・事後研修を工夫する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「学びに向かう力を育てる～子どもたちが主体的に考え、つなげ、高め合う授業をめざして～」のテーマに沿った研究の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・「めざす児童像」を学校だよりや学級集會などで提示し、家庭での協力を求める。 ・校内や教室に「学校教育目標」(けやきの子(A・エース)をめざせ！)や「めざす児童像」(人とつながり笑顔あふれる心ほかほかなけやきっ子)の合い言葉を表示し、日々の指導に生かすと共に、全児童が意識できるようにする。 ・掃除が積極的にできるように、掃除用具の点検や指導の工夫をする。 ・学校ビカビカ(美化)委員会の活動を支援する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「そうじに関する学校評価アンケート結果は、職員77%、児童98%の肯定的評価と、教師と児童との意識の差が見られた。掃除の仕方「けやきモデル」を共通理解し、どの学年でも統一した掃除の仕方を継続したい。 ・掃除の方法の指導だけでなく、その意味を児童と考えることもし、掃除や整理整頓については、家族の一員としての役割を保護者とも考えていきたい。 ・美化委員会が主体となって、就緒の使い方や掃除を積極的に進めるような取り組みを行った。 ・あったか言葉、場に応じた言葉遣いや、相手のことを考えて話すことなど、特別の教科道徳での指導も含め、今後も継続して指導していく。 | A | |
| | 校内研修の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ○年間を通して、算数科授業研究・人権教育・特別支援教育・生徒指導・外国語教育・食物アレルギー対応などの研修を計画的に実施している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「学びに向かう力を育てる～子どもたちが主体的に考え、つなげ、高め合う授業をめざして～」のテーマに沿った研究の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・「めざす児童像」を学校だよりや学級集會などで提示し、家庭での協力を求める。 ・校内や教室に「学校教育目標」(けやきの子(A・エース)をめざせ！)や「めざす児童像」(人とつながり笑顔あふれる心ほかほかなけやきっ子)の合い言葉を表示し、日々の指導に生かすと共に、全児童が意識できるようにする。 ・掃除が積極的にできるように、掃除用具の点検や指導の工夫をする。 ・学校ビカビカ(美化)委員会の活動を支援する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「そうじに関する学校評価アンケート結果は、職員77%、児童98%の肯定的評価と、教師と児童との意識の差が見られた。掃除の仕方「けやきモデル」を共通理解し、どの学年でも統一した掃除の仕方を継続したい。 ・掃除の方法の指導だけでなく、その意味を児童と考えることもし、掃除や整理整頓については、家族の一員としての役割を保護者とも考えていきたい。 ・美化委員会が主体となって、就緒の使い方や掃除を積極的に進めるような取り組みを行った。 ・あったか言葉、場に応じた言葉遣いや、相手のことを考えて話すことなど、特別の教科道徳での指導も含め、今後も継続して指導していく。 | A | |
| 家庭・校種間連携 | 家庭・地域等の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ○ゲストティーチャーや学校支援ボランティアの協力を得て、学習の成果をあげている。今後も、より効果的な学習活動を工夫し、更なる人材の確保に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭・地域との連携を図る | <ul style="list-style-type: none"> ・「めざす児童像」を学校だよりや学級集會などで提示し、家庭での協力を求める。 ・校内や教室に「学校教育目標」(けやきの子(A・エース)をめざせ！)や「めざす児童像」(人とつながり笑顔あふれる心ほかほかなけやきっ子)の合い言葉を表示し、日々の指導に生かすと共に、全児童が意識できるようにする。 ・掃除が積極的にできるように、掃除用具の点検や指導の工夫をする。 ・学校ビカビカ(美化)委員会の活動を支援する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価児童アンケート「情報発信」についての項目では、職員・保護者とも肯定的評価が98%以上であった。 ・保護者に校内の様子をより分かりやすく伝えるため、HPを頻りに更新し、校長室前的大型モニターにその時々の児童の活動の様子をスライドショーで流す等、本校の取り組みを常時発信することができた。 ・「地域の方々と一緒に勉強や活動することが楽しい」児童アンケートの肯定的評価は91%で良好である。 ・学校支援ボランティアの活動が充実し、今年度は給食ボランティアや図書ボランティアがさらに充実した。 ・ボランティア通信の発行、ボランティア交流会の実施を継続して行い、各担当と地域コーディネーターとの意見交流を行っている。 | A | |
| | 小・中における教科連携等の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ○年間を通して継続的な保・幼・小・中との交流を計画的に実施している。 ○けやき台中学校区青少年健全育成連携連絡会を定期開催し、児童・生徒の情報交換や授業参観等を行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保・幼・小・中・高の連携を図る | <ul style="list-style-type: none"> ・ウディ・カルチャータウン青少年連絡協議会を定期開催し、児童・生徒理解を深める。 ・学校・園だよりの交流を行う。 ・児童の様子について引き継ぎを行う。 ・年間を通して継続的な保・幼・小・中交流を計画的に行う。 ・5年生と入学予定園児との交流を継続する。 ・けやき台中学校生徒の「トライやる」の受け入れを継続する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価職員アンケートの「保・幼・小・中連携体制を確立し、学びの連続性を踏まえた指導を行っている」の項目では、肯定的評価が94%で良好であった。 ・保・幼・小・中・高交流を計画的に行い、授業を見合ったり、情報を共有したりする金を定期的に行うことが出来た。 ・算数科研究会では、中学校区の教員が参加し、外国語科では学びの連続を意識した出前授業やALT制作のビデオでけやき台中学校生活の紹介を行うことができた。 ・保育園から小学校、小学校から中学校への学びの連続を意識した指導を行うことができた。 | A | |